

議事録：令和 2 年度第 2 回石狩市文化財保護審議会

■日時：令和 3 年 3 月 29 日（月）13：30～15：00

■会場：石狩市役所庁議室

■出席者

石狩市文化財保護審議会委員

- ・村山 耀一
- ・百瀬 響
- ・三浦 泰之
- ・加藤 和子
- ・長 良幸
- ・若林 真紀子

事務局

- ・安崎 克仁（生涯学習部長）
- ・工藤 義衛（文化財課長・学芸員）
- ・坂本 恵衣（文化財課主事・学芸員）

■欠席委員

- ・鈴木 明彦
- ・坂梨 夏代

■傍聴者

0 名

1. 会長あいさつ

2. 報告事項

1) 令和2年度文化財関係事業について

- ①資料館事業について
- ②研究活動の状況について
- ③教育普及活動の状況について
- ④文化財関連事業について
- ⑤旧石狩小学校の利活用について

2) 新型コロナウイルス感染症対策について

議事での質疑応答は下記のとおり

工藤：皆さん本日はお忙しい中ありがとうございます。本日、鈴木委員、坂梨委員は年度末所要のため、ご欠席となります。委員8名のうち6名の方が出席されていますので、本日の審議会は成立となります。それでは令和2年度第2回文化財保護審議会をはじめます。

安崎：この場に初めて出席させていただきます。生涯学習部長の安崎と申します。令和元年10月12日に生涯学習部長を拝命しましたが、出席する機会がなく、失礼いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響により、このような時期の開催となりましたが、お許しいただきたいと思います。教育委員会でいうと小中学校では昨年4月に新学期を迎え、わずか2週間で50日の休業をしたという状況、その後夏休みの短縮、学校行事の中止・縮小した状況であります。今、入学式や卒業式は開催いたしましたが一年前と入学式・卒業式のスタイルが全く変わらない状況であります。感染者は下げ止まり、最近石狩市でも報告されてきてなかなか収束が見通せない厳しい状況がありますが、このような時期にお呼びたして申し訳ありません。今日はどうかよろしく願いいたします。

工藤：それでは最初に村山会長にご挨拶をお願いいたします。

村山：こんにちは。ただ今お話がありましたように令和2年度は新型コロナウイルス感染症の関係であらゆる団体や会合、個人的な行動が制限された時期が一年続いたわけですが、昨日の情報では石狩市でも増えて、あまりのんきにはしてられないと感じました。私はよくウォーキングします。マスクをすると苦しいため人気のないところをマスクなしで歩いていますが注意しなければならないと思っています。その中でこの文化財保護審議会も2回目ということですが、あらかじめ原稿を見せていたところコロナに関わりながらの一年間の事業の進みだということが文章、活字の中にも現れており、そういう中で令和2年度が終わります。そして3年度をどう

進めていくのか話を聞きながら進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

工藤：ありがとうございます。それではこれから議事に進みますが、以降の進行は村山委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

村山：それでは表紙に次第がありますが、その順で進めていきます。はじめは「(1)令和 2 年度文化財保護事業の①資料館事業」についてお願いします。

工藤：((1)の①について説明)

村山：ありがとうございます。それでは質問、ご意見を伺います。

村山：ホームページ関係というのは、市民に対しての PR だと思えますが、どの程度利用されているのでしょうか。

工藤：ホームページには閲覧数を計測する仕組みはあると思えますが、市役所のホームページの一部というつくりのものですから、文化財課・資料館のページがどの程度見られているのかをこちらでは把握できていません。

百瀬：それはわかるようにはできないのでしょうか。

工藤：申し訳ありません、ホームページの仕組みについて詳しくないものですから、今ここでお答えすることができません。

村山：一般の方がなかなか開けないということですか。

工藤：いえ、そういうことではなく、市のホームページがあり、その中に文化財課のページがあるので、ホームページそのものを見た数というのはわかるのですが、その中で文化財課のページまで来て見た方の数が少なくとも今すぐお答えできない状況です。

村山：市のホームページ経由で文化財課のページに行くということですね。

工藤：そうです。インターネットの仕組みとして、関連するワードでお調べいただければすぐ出てくることも可能ですが、見た方の数がすぐ出るかというのはまた別の話になってしまいます。

村山：(YouTube に公開している)鳥瞰図などもできるだけ多くの方に見ていただきたいところですね。

工藤：今 YouTube などがあり、動画があれば、コストをあまりかけずに見ていただける状況にはなってきています。しばらくいわゆる「おうち時間」が昨年長くありましたので、資料館関係だけでなく、同じ教育委員会ですと社会教育課では過去に市で撮影した映像、有名なものは砂と闘うなどのダイジェストなどを公開するなど「おうち時間」の充実にかかわって取り組んでいるところですし、文化財課からも提供している状況であります。

村山：空撮範囲は今後広げる可能性はありますか。望来、浜益、黄金山とありますが、例えば花川地区、生振地区など。

工藤：今公開しているものも、動画に解説が欲しいなどのお声もいただいていますので、改善点は検討中です。

百瀬：YouTube は石狩市のホームページとは連動していますか。

坂本：資料館のホームページにアクセスしていただければリンクがあります。

村山：令和2年度は十分な活動は難しかったようですね。

工藤：実際に人が集まるということが制約された時期がございましたので、その中でどのように事業ができるかという検討は重ねてきましたが、ある程度これならば、という結果開催できたのが年明けの石狩大学です。それ以前だと密にならないようにということで野外講座ビーチコーミングだけでした。これも屋内では集まらず、すべて屋外でという例年とは違う形で開催せざるをえませんでした。次年度についてはコロナの感染状況、対策については刻々と変わっておりますので、なかなかこれというのは難しい状況ではありますが、方針等を見ながらできるだけ、一応一年間色々な知見、経験はしましたので、できる範囲で取り組んでいきたいと思っております。

村山：令和3年度にうまくつながっていくとよいですが、現状ではなかなか難しい面もありますよね。

ボランティア活動のところにある作戦会議という名前が珍しいですね。例会のことですか。

工藤：石狩遺産プロジェクトMの構成するメンバーのミーティング、活動計画、報告などを互いに披露しながらという形で行っており作戦会議と呼んでいます。

村山：ハママシケ陣屋の修復は、フィールドですか、門ですか。

工藤：これは入り口の大手門です。大手門については老朽化が進んでおり、この数年対策について検討してきたところですが、国の史跡の中ということで文化庁との調整など進めてきました。この度陣屋研究会の方で補助金をとり、新しい門の設置については自分たちで行いたいというお話があり、それでは撤去について市が責任をもって撤去するということになりました。新しい大手門は陣屋研究会で設置後市の方へ寄贈いただき、以降の管理は市の方でという見込みでおります。

村山：以前から聞いておりましたが、これを修復するためには文化庁の許可がいるということでしたが、それが無事できるというのは良かったです。陣屋跡のシンボルのようなものですから。

百瀬：大手門の修復はいつ頃に終わる予定ですか。

工藤：現在は詳しい日程は固まっていますが、夏位でしょうか。大手門は人がくる部分です。秋、冬になってはあまり意味がないように思いますので、8月くらいには終わっているようにという気持ちではありますが、日程はまだ固まっていないところです。

百瀬：夏休み以降なら見学可能ですかね。

工藤：そのようにしたいと思います。

村山：それでは「②研究活動」についてお願いします。

工藤：(②について説明)

百瀬：学芸職員部会のコラムはどうしたら見られますか。次回からでもリンクいただけないですか。

工藤：「学芸職員部会」で調べていただけると出てきます。コラムのタイトルでも出てきます。

長：最近オンラインとよく言われますが、石狩市ではオンラインについてこれから何か方針などありますか。

工藤：実際はオンラインではなくこうして集まってお話ができるのが一番なのかなと、石狩大学なども内部で検討がありましたができるだけこれまでと同じようにやろうと日にちを設定して実施しましたが、今後感染者が増えて行動の制限、制約がでてくるのであれば考えていかなければなりません。現状希望的観測もありますが、具体的な方針はありません。ただ、撮ってすぐというのではなく、事前に録画したものを公開する形であればやりようがあるかなと思っています。

長：今日は先生方もいらっしゃいますが、今後こうしていけばいいというのはありませんか。

百瀬：来年度石狩市で講演させていただく予定がありますが、コロナがひどければオンラインでもいいのかなと思っていました。

長：こういう機会を利用するのはどうかとも思いますが、なかなか会場に足を運べない人もいますし、交通の便も悪かったり、日程もとれなかったりということを見ると録画して配信されたものをいつでも見られるというのは、学校等でも活用できると思いました。

安崎：これから一人一台端末ということで我々も今年度末にすべての学校で配置を終えて、来年度から休業したときにどのようにするのか運用について令和3年度から検討していくという段階です。

長：事前に準備できていればなとも思いました。コロナも収束はしていくと思いますが、いい機会と言っていいのかわかりませんが、じっくり考えることができるのではないかと思います。

百瀬：質問はしにくいでしょうね。

長：質問はそうですよね。

村山：では「③教育普及活動の状況」についてお願いします。

工藤：(③について説明)

百瀬：広報いしかりはホームページで見られますか。

坂本：見られます。

村山：今回の広報にも博物誌がのっていましたね。

長：講師派遣の欄にあつた探遊会がありますが、我々がやっている集まりで、坂本さん、工藤さんにお手伝いいただいております、古文書解読とありますが、明治時代のものを読ませてもらっています。それ以外にも博物館等の見学にいきます。そして今案の段階

なのですが、次年度、八幡墓地にある樺太アイヌの慰霊碑で慰霊祭をできないかという話がでています。藤村先生にも声をかけたらいいのではないかとも言ってもらい、開催することになりましたらお知らせします。またご指導いただければと思います。

村山：この集まりはどこで開催しているのですか。

長：その都度ですが、あいこぜ図書館、道の駅、厚田支所を使わせてもらうなどしていません。

村山：では「④文化財関連事業」についてお願いします。

工藤：(④について説明)

村山：最後に説明いただいた郷土研究会ですが、令和2年度がちょうど60周年ということで現在の顧問の田中實さんや、了恵寺の高木さんが若いころに創立し現在にいたっているということで、全道的にも室蘭に次いで二番目に長い会で、今後石狩の歴史等を守っていくためにも大事な活動を進めていきたいと思っています。ここに記載のある補助金をいただきまして、石狩市内の小・中・高等学校の校歌集を作りました。約50校位の概要と楽譜、校歌をまとめました。さらにCDにして一つは現在の学校、一つは閉校、廃校になった学校をすべて収録しました。一つは子供たちの歌、古い方は元厚田地域おこし協力隊の今野夫妻にご協力いただきました。これを道新全道版でアピールしたいと思っていたところ、連絡がなく、取り急ぎ石狩版に載せましたが、つい1週間前に滝川でCDにしたという新聞記事があり、こちらは冊子まで作ったのにおしかったなと思いましたが、主な博物館、図書館には寄贈して残していきたいと思っています。

ドローンの話もありましたが、大いに活用され、映像が広く知られればよいと思います。

百瀬：義経の涙岩というのは紅燕の話でいいですか。

工藤：紅燕の話は100パーセント創作でして、義経というのは出てきますが関わりはないと思います。また私が調べた限りですが、義経の涙岩に関して古い時代にそうした呼び名はなく、昭和30年代後半位から誰かが言い始めたもので、紅燕の話とも直接の関係はなく、誰かがそのようにつなげたのではないかと考えています。実際に見ると大きな岩についている、くっついているような岩が涙岩と言われています。

長：いまにも転がり落ちそうだから涙岩という風にも言われますね。

村山：トンネルもできて便利になりましたが、美しい風景が直接見られないというのもありますので、こういうものを利用してぜひ見せていただきたいですね。

長：石狩湾新港のカシワ林について教育委員会で調査、発表した資料はありますか。

加藤：石狩ファイルにありますよね。

若林：プロジェクトMの石狩遺産にもありましたね。

工藤：どういった調査を想定されているかわかりませんが、石狩湾新港を作る際の環境アセスメントがあり、その中でカシワ林に限定したものではないと思いますが、石狩湾新

港の予定地域の自然ということでどういった植生かという調査は行われました。

長：石狩川をわたって聚富にいきますと、ごみの焼却場周辺ではカシワ林の植林を以前したみたいで、防風柵がついて育てているのだと思いますが、ああいったカシワ林が日本海側にずっとあったものなのか、新港が特別なのか気になりました。

工藤：植生ということであれば、私も専門ではないのですが、日本海側にはわりと広く見られるのだと思います。浜益にもカシワ林があるはずなので。

長：厚田にはあまり見られないのでどうなのかなと。

工藤：基本的には砂浜だと思います。厚田のような岩場にはどうやらあまりないのではないかと。全然ないわけではないという話は聞いたことがあります。

村山：では「⑤旧石狩小学校の利活用」についてお願いします。

工藤：(⑤について説明)

村山：今お話にありました石狩小学校校舎利活用検討委員会というのがあり、令和元年に大体的方向が決まりましたが、いわゆる博物館的な内容でこういったものを網羅しながら展示する施設にしようと思ったのですが、令和2年度から文化財課が管理するようになり、さらに当面校舎そのものを公開したいという提案ですが、何かありますか。

若林：地元の人間として、石狩小学校に長くつとめた者として大変興味をもって楽しみにしていました。昨年活用プランの資料もいただき、こうなるのかと、ただコロナの状況ですし正直資料館の方達がお忙しくて大変だろうなと思いつつも、石狩として、石狩という歴史のある町で、資料館、記念館、博物館というものが本当にないなと思います。友人、知人、お年寄りも多いですが、待っているというかそういう場面があって、石狩の歴史を含め、生きた形で石狩の歴史を発表したり、過去、歴史を見ながら子供たち、若いお母さんたちにもっと石狩の歴史を含めてこれからを見ていったりするような、誇りに持ってもらえるような展示、場面、場所が欲しいと私も願っているし、そういう声をよく聞きます。これができるだけ早く、高齢者もお待ちですので、皆がいなくなってしまうたら困りますし、できるだけ早く見通しをもった形で進められればいなと願っているものですから、少しずつ公開をするのも大事だと思いますが、できるだけ皆さんの地域の人たちの声を聞く、石狩の人々がこういうことを望んでいるのだというのを聞く機会を作ってほしいなと思います。いつも、石狩市民図書館がとても魅力のある場所になっていて、石狩の中でも誇れるような場所になっています。私も石狩の人はいいよね、よく行きますというような声をききます。いつも変化があり、固まったものではなく、常に新しい企画があったり、いろいろな人たちの声が常に動いていたり魅力のある場所になっています。石狩小学校は古い建物ではありますが、わくわくするような、おもしろい、楽しいねという場面になれるような環境を含めて、古い面を見てもらえるのも一部必要だと思いますが、もっと斬新な形で計画的に、見通しを持って、この年度、この次の年度にはこうやるという

風に進めていただきたいと思います。そしてボランティアのような人もたくさん必要になるのではないかと思います。工藤さんなどに音頭をとってもらい、新しい人たちが手伝いにいくというようなものを発信してもらえれば、そういった歴史に興味を持っている方はたくさんいますので、ボランティアを募る等見通しをもってできるだけ早く進めていただきたいと思います。

村山：今の話に関して加藤さん何かありませんか。

加藤：今のお話を伺っていて、高齢化がかなり進んでいます。私も 70 過ぎていますが、花川地区から通っていくのが大変なことになるのではないかと思います。いっそのこと公開して全国的に若い力をいれていかないとボランティアの力だけでは先細りになるのではないかなと思っています。もちろん歴史は大事ですがそれと同時にそれを活用できる若い人の力、どういった文化を活用していくのかというのがなければ、そこだけで温存してというのは難しいと思います。

若林：予算化というのでしょうか、市の方でどれだけ力を入れられるのかというそういう思いを言っていかなければいけないのかなと思います。そうしなければ埋没してしまう、死蔵してしまうと思います。石狩市でも農業関係、漁業関係だとか、酪農関係、港関係、石狩のこの百数十年の歴史が残っているものについて見直してみても、どこまで公開できるのか計画的に考えていただければいいなと思います。

村山：検討委員会の当初では校舎と砂丘の風資料館と融合した形で考えていくとうことですが、今の説明では当面、来年度は校舎そのものという提案でしたが、いまのご意見から何かありますか。

百瀬：まずは予約制で見学ということですね。

工藤：はい。

長：加藤さんの話も聞いていて、私たちの地域もそうですが、高齢化してきてどうにもならないだろうという状況ですが、若い人たちの力をかりて、そういう人たちがどういうところに興味を持つかというのが難しいところです。先ほどおっしゃったように 150 年歴史があるのだから、北海道で 150 年という古いよという話ですが、本州にいけば 150 年はなんてと笑われちゃうようなものかもしれません。それを若い人たちにどのような形で興味を持ってもらうかというところを見つけていってもらいたいし、私たちもし見つけられればこういう場でもざっくばらんにお話できるようになればいいと思いますし、今回今年の春からという話ですが、そろそろ広報誌に載せなければならぬ時期なのかなと思いますが、大々的に知らせるのか、細々とやるのか、どういうお考えなのでしょう。

工藤：今回、具体的にいつというのを今日はっきりとお知らせ出来ないことは心苦しいところではあるのですが、大まかに 5 月から 6 月にかけて公開したいと思っています。公開をすると決めたからには人に言わないでということはなく、できるだけ多くの方に興味をもっていただく、石狩小学校が通学区域だった本町の人たちにとって大

事だというのではなく、市民にとってだけでなく、もっと広く北海道で最初の円形校舎ということで広く関心を持ってもらいたいと思っています。

村山：校舎公開というのは、校舎そのものだけなのでしょうか、それとも石狩小学校に関わる歴史的な資料というか、そういったものも含めてでしょうか。

工藤：そうしたものが全くないというのもありますので、何らか小学校の歴史についてのコーナーは作りたいと思っています。

長：新聞しかみていないのでよくわかっていない部分もありますが、室蘭の円形校舎について壊すという話があり、もったいないから使おうという話になったようですが、恵庭とか道内にもいろいろあったのですよね。

工藤：残っているのは石狩や室蘭以外にもあるのですが、中に人が立ち入れる状況のものはほとんどないはずです。

長：そして一番最後まで学校として使われていた建物ですよね。それならばやはり先ほど言われたように、石狩の人だけの財産にするのではなく、いろいろな教育関係、美術関係の方が興味をもてるようなものを作ってもらえれば盛り上がるのかなと思いますね。

若林：来年度についてはまた動きが違ってくるのかなとは思っていますが、入場料とかそういうものはどうなのかなと思います。砂丘の風資料館、保護センター、ビジターセンターまで行く人もいると思いますが、お金あまりとらないでもらえないかなという気持ちがありますが、各箇所が入館料となるとやはり足が遠ざかってしまうと思うので、せっかく行きたいと思ってもなかなかねという言い方されることがあるし、市の方でも思い切ってけちらないで文化的な部分で高齢者に対しては恩返しのなものもあると思うので、できるだけ気楽に、何回でも行きたいと思ってもらえるような形にしてもらえないかなと思います。

加藤：私は無料でたくさん見られるというのは反対で、すべて無料というのが心情的に好きではありません。というのも、青森の三内丸山に行った時のボランティアの方が苦小牧の方、売店の方は花川の方だったりしました。その時は(ボランティア)メンバーでいったものですから打ち解けて、「ここ無料なんだよね、100円でもとらないとだめだよ、そんなに行政にお金があるわけではないんだから。」とその方がお話をされていました。私もたくさん払うのはどうかと思いますが、ある程度払って、じっくり見ていくというのがいいのかなと思います。気楽にいけるといいとは思いますが。

若林：料金については別で決めていただければいいのかなと思うのですが、例えば説明の方が常にいるかないかで大分かわりますし、受付の方がお金もらってそれだけで、何の説明もなしにというのなら、どこに行ってもガイドさん、説明さんの方がいると心強いし、さらに見たものが広がっていきますし、ぜひ石狩小学校でも説明をできるような体制で進めてほしいなど。ただ行って見て、この古さというので終わるのではな

く、なんとなく歴史の話ができたり、写真をうまく展示してもらったりがあるといいなど。昔私がいたときですが、倉庫にはいろいろな古いものがあった、かび臭い面もありますが、わくわくもするようなどころがありつつ学校を出ました。私は祖父が卒業生だったということもありそういうものが見られたりすると楽しかったものだから。そういう説明がちょっとあるといいし、そうなる人がいる、そのための人員配置なんかも考えてもらえればいいと思います。

村山：今色々ご意見がありましたが、公開は資料館とセットですか、単独ですか。

工藤：まず、お金を取るかという話については、今のところ円形校舎の見学でお金を取ることは考えていません。基本無料で見学していただけます。ということですので、資料館と連動ということは、資料館を通らないと見学ができないということではありません。円形校舎は円形校舎の見学についてご予約いただき、こちらの方で対応できる日時ということで見学いただくように考えています。また地域にある他施設については活用検討委員会でもお話があり、単独でというよりはそういった関係性を考えて人が流れるような形が望ましいのではないかとご意見をいただいたように記憶しておりますので、ご案内等は必要だろうと考えております。

若林：前にでていた活用プランの中にもありましたが、グラウンドの環境も含め、行きたくなるような、草生えて、壊れたものが転がっているような状況はまずいなと思うんです。潤いというか、建物と連動した状況、私がいたころからそうですが、学校とまわりの環境というのはとても大事な要素だと思うんです。お掃除を含めて庭の問題、管理については子供たちの情操、地域の人たちも含めて重要な要素を持っていると感じているので、魅力を感じるような石狩小学校にしてほしいと思います。

村山：石狩小学校の活用について来年度の話がありましたが、過去に検討しておりますので、それにむけて極力早く整備をしていただければと思います。それでは最後、「(2)コロナウイルス感染症対策」についてお願いします。

工藤：((2)について説明)

村山：コロナがこれで終わりではなく、継続という中での取り組みですが、何かご意見はありませんか。ないようですね、我々個人的にも十分注意してコロナにかからないようにしていかなければならないですね。

工藤：長時間にわたりありがとうございました。それではこれで令和2年度第二回文化財保護審議会を終わらせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

議事録を確認しました。

令和3年 4月16日
石狩市文化財保護審議会
会長 村山 耀 一